



「流水間断無」。檜山郁夫シルクロード美術館の企画展チラシから

日本画家

# 平山郁夫さんの命の原点「白」

シルクロードをテーマにした作品で有名な日本画家、平山郁夫さん（2009年79歳で死去）のことを紹介する番組（テレビ東京「美の巨人たち」）を興味深く見ました。水の流れる白色に命を感じ、それを主題にした絵があるというのです。絵のタイトルは「流水間断無」。広島市に生まれ育った平山さんは原爆で被曝し、後遺症で苦しんでいた30歳のころ、青森県奥入瀬溪流の水の流れに癒され、それを約35年後の1994年に初めて作品にしたと紹介されています。古代、アジア大陸の東部の文化が行き交った幹線交通路の姿を独特のスタイルで描いてきた一連のクロード作品の後、原点に戻る仕事と言っていい創作はなぜなのか解き明かそうとする番組でした。

「さらしな」という地名の白のイメージとそのイメージがもたらす清々しさと躍動感について興味があった（シリーズ226、227）ので、「流水間断無」を収蔵する山梨県北杜市の平山郁夫シルクロード美術館（写真右下）に番組が参考にした資料があるか電話で尋ねました。担当の方が平山さんご自身の文章にその記述があると教えてくださり、「平山郁夫 平成の画業Ⅰ 日本の街道」（講談社）をひもときました。

そこには「奥入瀬の流れと中尊寺」というタイトルの文章があり、「流水間断無」を描く経緯についてのくだりの中に「白は、生命すなわち生きる色を象徴している」とズバリ書いてありました。こうした境地に至る背景を、番組や平山さんの文章からまとめると次のようになります。

先に書きましたように、原爆の後遺症があらわれたとき、東京芸術大学の先生だった平山さんは学生を連れて写生旅行として奥入瀬に行きま



「仏教伝来」。佐久市立近代美術館所蔵。絵はがきを複写

